

代表質問

Q 村政運営の基本姿勢は

A 対話重視の村政運営を



▲お気軽トークの様子

Q1 財源不足が見込まれるという厳しい財政環境の中、どのような基本姿勢で、村民が希望を持っている村政運営を執行していくのか、考え方を伺います。

A1

「お気軽トーク」や「村政懇談会」など住民との対話



黒沢 明夫 議員（しののめ会代表）

Q2

最重点産業振興策の展望は

20年度の最重点課題として産業振興に取り組み、そのトップに（仮称）イノベーションセンターの建設を掲げていますが、その目的および将来的展望と本村におけるメリットを伺います。

A2

岩手県立大学地域連携研究センター敷地内に建設し、現在大幅に技術者が不足している組込みソフトＩＴシステム関連企業が岩手県立大学の優秀な人材を活用して、本村、及び岩手県で事業展開していく土台づくりが目的です。

センターに進出した企業のビジネス展開が確立すると組込みソフトを生かしたものづくり製造企業

を重視した行政サービスの展開および、より一層の情報開示と積極的な情報発信を行いながら説明責任を果たすことが第一と考え、住民と役場職員が一体となった、未だに希望が持てる村政運営を推進するよう努めてまいります。

A3 Q3

の立地へと繋がり、村民の雇用の確保が見込まれることになります。

巣子駅まちづくり事業の現況と展望を伺います。

19年度の一日平均乗降客数は825人で昨年度の666人より26.3%伸びています。今後の事業は駅にアクセスする「巣子駅線」と「巣子滝沢駅線」の整備を予定しています。「巣子駅線」は地権者との同意が未だ得られないことから、引き続き交渉を継続するとともに、選択肢の一つとして土地収用法に基づく事務手続きも進めています。「巣子滝沢駅線」は説明会を経て、現在地権者と用地交渉をおこなっている状況です。

両事業とも平成21年度完了目途に全力を尽くして、更には、官民一体となつたマイレール意識の高揚を図りながら、乗降客の増加を目指してまいります。

Q 高齢者制度に不安の声

A 皆保険堅持のため必要



武田 猛見 議員



▲保険年金課窓口

Q1

後期高齢者医療保険制度は、

生涯、保険料を払わなければ
ならないことと、75歳から医療差

別される」とから「姥捨て山制度」
といわれている。

①この制度の村としての認識と、高

齢者への周知はどのように行った
か。

②所得ごとの対象者数は、また、法
定減免と激変緩和による軽減以外
に村独自に軽減する考えはあるか。

③資格証明書の発行は、保険証の取

り上げと同じ。発行しない考えは
あるか。

A1

①制度は、新たに保険料負
担も発生するが、皆保険制
度の堅持と医療費の安定性が保
たれると認識します。

②対象者は、3,698人おりま
す。所得金額の階層で見ると、
33万円以下が2,554人で全体
の7割になります。

また、減免・軽減は、広域連
合の条例で「特別の理由がある
方は、保険料の徴収猶予および
減免できる」規定があり、基準
の策定を進めています。

③資格証明書は、広域連合と情報

ごみ有料化はすべきでない

を密にすることで、個々の実情
に応じた対応がされると理解し
ています。

Q2

①旧ごみ焼却場の解体と、施
設の整備および活用の計画は。
②県では、家庭ごみの有料化を進め
ているが、反対の立場で、村の考
えを聞きます。

A2

①5年以内に計画し、地域
住民と共に進め、リサイク
ル施設を整備します。

②県の研究会には村も参加してい
ますが、有料化はごみ減量の有
効手段と考えており、動向を踏
まえ方針を定めます。

A3

効果については、学習面・
生活面ともに出ています。
県でも拡充を検討しており、村も
施設整備と合わせて要望します。

Q3

少人数学級を取り組んだ効
果と、県に拡充を強く求める
考えはあるか。

少人数学級の拡充を求めよ